## コラム　北海道内の大雨による土砂災害に対する技術指導と緊急ｾﾐﾅｰの開催

26 年度は北海道内で局地的に猛烈な雨が 8 月に礼文町や稚内市で、9 月に支笏湖周辺で降り、大雨による土砂災害が相次ぎ発生しました（**写真-1、写真-2**）。特に 9 月の支笏湖周辺の大雨では数十年に一度の大雨が予想される「大雨特別警報（土砂災害、浸水害）」が北海道で初めて発表され､国道 453 号の北奥漁観測点では降り始めからの降水量は 365mm に達し、最大 1 時間降水量は 68mm を記録しました。土石流や河川増水による橋梁等の損傷や道路斜面の表層崩壊等、国道 453 号では 19 箇所が被災しました。これらの災害に際して、寒地土木研究所は北海道開発局から派遣要請を受け、地質研究監、研究連携推進監、寒地構造ﾁｰﾑ上席研究員､防災地質ﾁｰﾑ上席研究員、寒地河川ﾁｰﾑ総括主任研究員を各災害箇所へ派遣し、現地調査を行うとともに応急対策について助言しました。これらの活動が評価され、礼文町長と札幌開発建設部長から感謝状をいただきました（**写真-3**）。

また、平成 26 年 12 月 4 日（木）に日本気象協会、北海道立総合研究機構地質研究所、室蘭工業大学、北海道大学の協力のもと、「北海道の土砂災害に関する緊急ｾﾐﾅｰ」を開催し、これら災害の現地調査報告をもとに一般の参加者も交えて意見交換を行いました。（**写真-4**）

写真-1 礼文島における斜面災害

写真-2 国道 453 号の土石流災害

写真-3 札幌開発建設部長の感謝状

写真-4 北海道の土砂災害に関する緊急ｾﾐﾅｰ